



菱沼あゆ美 議員  
(公明党)

**問** 小学校入学前の  
就学援助支給は

学用品や給食費などを支給する就学援助に新入学準備用品費（ランドセルなど）がある。しかし、入学後の支給である。国が交付要綱を改正し、入学前支給と倍額の支給が可能となった。対応はどうか。また、援助の周知に各学校のホームページを活用しては、

**答** 適正な実施方法を  
調査研究していく

新入学準備用品費の入学前支給と倍額支給は、経済的に困窮する世帯の負担軽減に有効な手段である。今後は、増額に努めるとともに、入学前支給の適正な実施方法を調査研究していく。また、ホームページの活用などにより、援助制度の周知に努めていく。

**問** 市民目線の  
「暮らしの便利帳」を

市制施行5周年記念に、市役所の情報や買い物支援としての宅配・出張サービス情報、住所変更後の地図を掲載した冊子「暮らしの便利帳」を作成し、全戸配布をしてはどうか。市民の意見を聞き作成すると、使いやすく分かりやすいものになると思うが、いかがか。

**答** 市民が親しみやすい  
便利帳を作成する

市制施行5周年記念事業の一環として「暮らしの便利帳」を作成する。作成にあたっては市民の皆様および関係団体からの情報収集に努め、行政情報に加えて、生活の多様化に対応した商店会や個人商店のサービスなど市民の皆様が必要とする情報を掲載していく。



渡辺聡一郎 議員  
(創政会)

**問** 一時保育の受け入れと  
保育士の確保を

一時保育において保育士の数が不足している。そのために本来の子どもの定員数が受け入れられていない。一時保育の役割がしっかりと果たされるように環境を整備していく必要がある。保育士への支援や潜在保育士へのアプローチなど、市として対策を図れないか。

**答** 提供体制整備のため  
保育士確保に努める

質の高い保育の提供と一時的保育事業の充実のため、引き続き広域での求人活動などにより保育士の確保に努める。支援は、埼玉県社会福祉協議会の入学金や就職準備金の貸付事業、埼玉県保育士・保育園支援センターによる潜在保育士の再就職支援制度を活用する。

**問** 新たなニーズを  
踏まえた農業支援を

埼玉県では今年度から飲食店や流通業者の要望をヒアリングし、それをもとにリゾート用米やヨーロッパ野菜など、付加価値の高い新たな農作物を農家に生産してもらおう取組を始める。市としても県などと連携し、新たなニーズを踏まえた農業支援を行えないか。

**答** 県などと協力して  
支援をしていく

この事業は魅力的な取組であると考えている。市としては、県や農協と連携しながら、生産者と事業者とのマッチングに向け、当事業の周知や活用を図っていく。

また、生産者の機械などの導入に際しても、県などと協力して支援をしていきたい。

